



第13回

～つなぐつながるつなげる～

道の駅 べに花の郷おけがわ

3月27日(木)に県内21か所目となる道の駅「べに花の郷おけがわ」が、桶川市川田谷の国道17号上尾道路沿いにオープンしました。格子や下屋、切妻など、江戸情緒を取り入れたデザインとなっており、歴史と文化を継承しつつ、現代から未来へと発展を遂げるこれからの時代の桶川を表現しています。都心から40km圏にあり、圏央道桶川北本ICに近いことから、「県内、関東圏の観光のハブ」として、また首都圏における広域災害時の後方支援拠点としての機能も期待されている道の駅「べに花の郷おけがわ」をご紹介します。

桶川市は、江戸時代に「桶川宿」として栄えた中山道の宿場町。今でも中山道沿いでは、その当時の面影が残っています。また桶川は紅花をはじめとする農作物の集散地兼宿場町として栄え、特に紅花は、幕末になると、山形の「最上紅花」に次いで全国で二番目の生産量を誇り、まちのいたるところで紅花畑が見られたといわれています。

桶川における紅花の生産は、天明・寛政年間(1781～1801年)に江戸商人がその種子をもたらしたことから始まり、「桶川^{えんじ}麩脂」の名で全国に知られるようになりました。

今回オープンした道の駅「べに花の郷 おけがわ」は、格子や下屋、切妻など、江戸情緒を取り入れたデザインとなっており、歴史と文化を継承しつつ、現代から未来へと発展を遂げるこれからの時代の桶川を表現しています。

コンセプト

① “東京から一時間” 都市と故郷の交差点

——「県内や関東地方の観光のハブ」として
(休憩機能、情報発信機能)

国道17号上尾道路に隣接し、圏央道桶川北本

ICに近いことから、市内・県内観光、関東地方の観光とのハブとして、タッチパネル式のデジタルサイネージを活用した観光案内、無料公衆無線LANやEV充電などを設置しています。

また、お年寄りや赤ちゃん連れの方など、どなたにも優しいおもてなしの場、憩いの場となります。(赤ちゃんの駅、ドックラン、サイクリストにも対応したスタンドラックなど)

② “手ぶらで楽しむ” 地域の百花店

——桶川の魅力を発信(地域連携機能)

- 地産地消を促す農産物直売所・加工所、「桶川ならではの」をPRする観光物産館・飲食施設
- 地域の伝統芸能を披露できるイベントスペース

■圏央道「桶川北本IC」からの一時退出が可能で

——圏央道のパーキングエリアとしての機能

桶川北本ICから約1キロの場所の利点を生かし、国土交通省が実施している「高速道路の休憩施設の不足解消に向けた社会実験」の対象に県内で初めて選ばれました。

(※「ETC2.0搭載」、「2時間以内」等の条件有)

③ “陸・空・川のネットワーク”を活かした 防災の拠点

——「災害時防災拠点」として（防災機能）

広域交通網の結節点、地盤の良い大宮台地という立地を活かし、広域災害時の後方支援拠点としての役割を期待されており、災害時には、周辺防

災関連施設（埼玉県防災航空センター等）との連携や、支援物資の集積拠点としての活動を想定しています。

太陽光発電や非常用電源、防災かまど・ベンチ、備蓄倉庫など高い防災機能を備えており、広域防災や物資集積の拠点として整備されています。

道の駅 べに花の郷おけがわ 施設案内

所在地：埼玉県桶川市川田谷 4324 番地の 1
敷地面積：29,672㎡

地域振興施設

■ 飲食施設

イートインのお食事処と軽食、テイクアウトなど（市内産品を使用した飲食施設）

■ 物販施設

農産物、土産物、生活必需品等、道の駅オリジナル商品、桶川市観光協会推奨品

■ 休憩施設

市内の観光マップや観光周遊ルートの案内、デジタルサイネージ等を活用した市の情報発信、授乳室とおむつ替えシートのある「赤ちゃんの駅」

■ イベントスペース（大屋根広場）

その他

駐車スペース（237 台）／ 24 時間利用可能なトイレ／ドッグラン／EV 充電施設

